

東京2020

オリンピック

競技大会の記録

浦安市にゆかりのあるオリンピックや、浦安市がホストタウンになっている国の選手たちの活躍を紹介します。

## ● 柔道男子100kg級代表

ウルフアロン選手が  
金メダルを獲得

東海大浦安高校出身で了徳寺大学所属の柔道男子100kg級代表のウルフアロン選手が個人で金メダル、混合団体で銀メダルを獲得しました。8月11日に、その報告のため市役所を訪れ、市長からお祝いの言葉が伝えられました。ウルフ選手は「自分がやってきたことが実ってメダル獲得という結果になって嬉しいです」と話しました。



▶ 昨年のスポーツフェアの様子

## ● 自転車競技女子マディソン代表

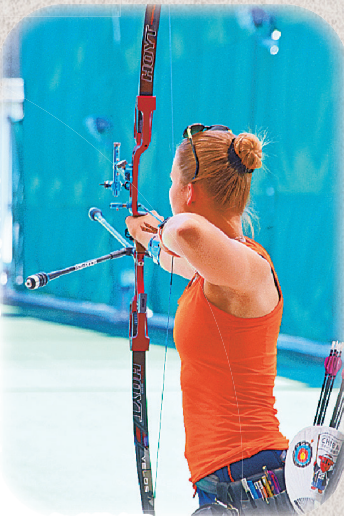
## 中村妃智選手がオリンピック出場

浦安市出身の中村妃智選手が自転車競技女子マディソンで、悲願のオリンピック出場を果たしました。残念ながら、メダル獲得には至りませんでしたが、中村選手の今後の活躍に期待します。

## アーチェリーオランダ代表

## 7月14日~19日 事前キャンプを実施

代表チーム7人が、運動公園アーチェリー場で事前キャンプを実施しました。男子世界ランキングの1位になったこともあるスティーブ・ヴァイラー選手は、運動公園アーチェリー場について、「3年前にも来ましたが、横風もしっかり防いでくれるし、とてもよい施設。よい練習ができていますので、金メダルを狙っていきたい」と意気込みを語りました。また、ガブリエラ・シュレツァー選手は、「今回は残念ながら、限られた人としか接することができませんが、またいつの日か多くの浦安の人と会いたいです」と話してくれました。



## 7月24日 混合団体銀メダルを獲得



アーチェリー混合団体に出場し、見事銀メダルを獲得したスティーブ・ヴァイラー選手とガブリエラ・シュレツァー選手。30日には、その報告のため市役所を訪れ、市長は浦安市民を代表して、お祝いの言葉を贈りました。



## ● 陸上スロバキア代表

## 7月28日 公開練習を実施

明海大学で行われた公開練習では、日本の気候に体を慣らすため、早朝から練習を開始。50km競歩で前回大会金メダルを獲得したマテイ・トート選手は「自分を慣らしていくのは大変だが、競技に集中してメダルを取りたい」と話し、16kmのウォーキングを行いました。ハンマー投げに出場するマルティナ・フラスノバ選手は、浦安の印象として、「すごくいい場所で、必要なものはすべて揃っている。いい状態で、ハンマー投げの練習ができる」と話してくれました。

また、26日には、舞浜小学校の子どもたちとオンライン交流を行った代表チームの選手たち。子どもたちから「メダルを勝ち取ってください」というエールを受け取りました。

